

西洋社会科学古典資料講習会に参加して

本木 洋子（資料管理課）

1. はじめに

11月8日から4日間、一橋大学社会科学古典資料センター主催の「西洋社会科学古典資料講習会」に参加した。今年で25回目を迎え、早稲田大学図書館からも毎年のように受講生を送っている。今回の受講生は32名。北は東北、南は九州と全国から参加者があった。

この講習会は、図書館員、西洋社会科学の研究者を対象とし、西洋書誌学、西洋社会科学古典資料の保存・管理、西洋社会科学古典研究を3本柱としている。

2. 講習内容

日常業務の中では、新刊本を扱うことが多いが、今回のテーマは古典資料である。講義は、有難いことに初心者向けのものが多かった。原稿が出来上がってから出版されるまでの工程をスライドを使いながら進められ、更に、折り丁やウォーターマークについては、見本が配られ、わかりやすく説明があった。同時期に出版された本でも、それが出来上がるまでに、本文の異同が生じることがあり、そこに著者・出版社の何かしらの意図がある。だからこそ、オリジナルの図書、版違いの図書を持つことが重要であることを学んだ。

保存・修復の講義では、劣化の様々な要因（酸性紙のように紙自身に内在する要因と、虫・カビ・紫外線など環境に依存する劣化要因がある）とその対策について伺った。対策の中では薬剤を使用せず、環境にやさしい低温殺虫処理がお奨め

第25回 西洋社会科学古典資料講習会 時間割

		第1時限 (9:40-11:30)	第2時限 (13:00-14:50)	第3時限 (15:10-17:00)
1日目 (11/8)	オリエンテーション	書誌学 (I) 記述書誌を“読む”面白さ 武者小路信和 (大東文化大学助教授)	書誌学 (I) 記述書誌を“読む”面白さ 武者小路信和 (大東文化大学助教授)	保存・修復 (I) 紙資料の保存 増田勝彦 (昭和女子大学大学院教授)
2日目 (11/9)	附属図書館 観覧学	書誌学 (II) 啓蒙の「書物学」 岩本吉弘 (福島大学教授)	保存・修復 (II) 製本の病理と書籍の保存 岡本幸治 (製本家・書籍修復家)	社会科学古典資料センター見学 書庫・貴重書保存修復工房ほか
3日目 (11/10)		書誌学 (III) 社会科学古典資料センターの 古版本目録作成について 松尾恵子 (一橋大学助手)	古典研究 (I) ルソーとモンテスキュー 山崎耕一 (一橋大学教授)	書誌学 (IV) 15世紀西洋活版印刷本イン キュナブラの手ほどき 雪嶋宏一 (早稲田大学図書館司書)
4日目 (11/11)		古典研究 (II) オットー・フォン・ギールケ のゲルマン法思想と自然法思想 原敷二郎 (一橋大学大学院助教授)	古典研究 (III) 歴史学派とマーシャル (歴史学 派からみたマーシャル) 西沢保 (一橋大学教授)	終了式

とのことである。

3. 社会科学古典資料センター見学

一橋大学図書館のすぐ横に社会科学古典資料センターがある。センターは1978年に附属図書館より分離され、貴重書図書館として独立した。ここでは、貴重書の収集から研究・整理・保存・閲覧までを集中管理している。蔵書数は7万冊。建物に入ってすぐに閲覧室・事務室があり、奥に貴重書庫と保存修復工房がある。

当日は、受講生のために、講義で使用された資料を展示してくださり、講義中の内容を実際に手にとって確認することができた。また、貴重書庫にも入ることが許され、保存のためにセンターがどのような工夫をしているのかの説明を受けた。それらは小さな工夫の積み重ねであるが、センター職員の方々の、保存に関する意識の高さを感じることができた。保存修復工房では、革装の手入れ方法・保存箱・封筒ホルダーの作成を見学した。工房には便利な設備が整っており、専門家の指導の下、少人数であるが効率よく作業が進められている。こちらでは、修復前に図書の状態（製本や中身の構造、材料、劣化状態）を調査票に記入・データ入力をしており、体系的な保存作業を行っているのに驚かされた。

4. おわりに

一橋大学は国立の文教地区にあり、緑豊かな場所である。今回、講習会の会場となった「佐野書

院」は初代学長の元私邸を改築した建物で、窓からの木々の眺めも素晴らしかった。そのような環境の中で、4日間も(端末ではなく)資料とじっくりと向かい合うことができ、感謝している。